

ディビジョン番号	19
ディビジョン名	化学教育

大項目	2 初等中等教育
中項目	2. 5 大学入試と化学教育
小項目	2. 5. 3 大学側から見た入学試験

概要
<p>「横並びの人材育成」「平等を尊ぶ精神」は、多くの人々に社会での成功を収める機会を与えた。しかし一方で、いわゆる学歴偏重社会を生み出し、子どもにとって学習の目標が「良い大学に入ること」になってしまった。子ども達は、いかにして「効率良く問題を解くか」に全力を傾注するようになり、じっくりと問題を考えるという姿勢が欠落することになった。</p> <p>この状況を改善するため、大学入試では「考える問題」を出題するような意識改革が必要である。現在、大学名誉教授らによる入試問題改革の取り組みが始まっている。</p>
現状と最前線
<p>わが国では、他の先進諸国に比べて、本人のもつ資質よりも学歴を重視する風潮がより顕著であると思われる。これまでの日本の経済を支えてきた大手企業でその色彩が濃いのも否めない。戦後、新しい憲法や教育基本法のもとで続いた「横並びの人材育成」、「平等を尊ぶ精神」は、すべての子どもに、家柄や親の職業、貧富の差に関係なく、能力があり努力さえすれば、好きな職業を選び社会で成功者となれる機会を与えた。これは、英国など階級制度が残る先進国にはあまり見られないわが国ならではの美德である。しかし一方で、個人の能力評価の尺度が「どのような大学を出たか」が最優先されるようになってしまった感も否めない。そうした社会状況がもたらしたものは、子どもにとっての究極の目標が「良い大学に入ること」であって、そのために「入学試験で良い点数をとること」のみに邁進し、大学に入学してしまうと「もうそれで終わり」のような、夢の無い人材育成が主流になっているのではないだろうか。</p> <p>このような状況において、生徒は基礎的な力を身につけるとい学校での本来の目的は二の次にして、いかにして「効率良く問題を解くか」に全力を傾注するようになり、その結果、じっくりと問題を考えるという姿勢が欠落することになる。次世代を担う子ども達の意識がこのようでは、わが国の行く末を考えるととき由々しき問題と言わざるを得ない。大学側も入試問題が高校教育に及ぼす影響が大きいことを強く認識して、しかるべき対応を早急にとる必要がある。</p> <p>このような事態を危惧し、組織的に動き始めている組織がいくつかある。田丸謙二東京大学名誉教授らは、大学入試は「考える問題」を出題するような意識改革が必要であるとの理念に基づき、考える力を育むための入学試験問題を収集してホームページで公開し、各大学の参考に供する活動を始めている。</p>

<参考文献>

- ・ 伊藤卓, “気になるわが国の大学入試”, 化学と教育, 54, 127 (2006) など

将来予測と方向性

- ・ 5年後までに解決・実現が望まれる課題
「考える問題」を出題する大学入試問題の改革
- ・ 10年後までに解決・実現が望まれる課題
大学入試制度の抜本的改革

キーワード

学歴 人材育成 考える問題 入試問題改革

(執筆者: 梶山 正明)